



ビンフォールド夫妻Ⅱ

8月4日（火）

ビンフォールド夫妻が下妻基督友会を開くとすぐに、本校第6代校長の塚田節先生を表敬訪問した。塚田校長はリベラルな名物校長として知られ、夫妻と本校職員等との関係を温かく見守った。そして英語の教員を中心とした「7人の紳士」達が「ビンさんを囲むグループ」をつくって夫妻との交流を深めたことが、本校百周年記念誌である「為桜百年史」に詳しく記されています。

大正11（1922）年から定年で帰米する昭和11（1936）年10月まで、教員のほか英会話練習の本校生たちも加わり、盛んに国際交流が行われていたのです。1932年には、英書47冊寄贈という記録もあります。その数年後に互いの国が、戦争状態になることを彼らは想像していたでしょうか。そして戦争をどのようにとらえていたのでしょうか。

